Vol.2019-IS-149 No.3
2019/8/23

［招待講演］地方議会会議録に含まれる議論を対象として背景・過程・結果を結びつける

木村 泰知 †

概要：近年，フェイクニュース検出やファクトチェックのように政治情報の取り扱いが問題視されている．これらの問題に対して，自然言語処理技術の活用が期待されている．具体的には，誰が何を発言しているのか，発言の根拠が存在するのか，根拠となる引用元はどこに存在するのか，などの問題を解決することであり，異なるデータ構造やさまざまな言語表現の中から，関連のある文書を結びつけることである．ファクトチェックをするための根拠，つまり，一次情報は，行政機関や自治体などが保有していることが多い．特に，国会や地方議会の会議録は，発言をそのまま書き起こした形式で記録されていることから，一次情報とみなすことができる．

このような背景から，私たちの研究チームは，政治に関する研究の活性化，および，学際的応用を目指して，地方議会会議録に含まれる議論を対象として「議論の背景」「議論の過程」「議論の結果」を関連づけるコーパスの構築を進めてきた．具体的には，新聞やWikipedia（議論の背景），地方議会会議録(議論の過程)，条例（議論の結果）などの言語資源を地域，時間，課題の観点から関連づける方法について検討してきた．また，構築したコーパスを用いて，政治情報の問題を解決するためのタスク設計を行ってきた．

本発表では，政治情報に関連する課題に対して，自然言語処理技術を用いて，解決するアプローチについて説明する．また，私たちの研究チームが構築したコーパスがどのような政治情報の課題解決をするために役立つのか，評価型ワークショップの NTCIR14 QALab PoliInfo タスクを例に説明する．

† 小樽商科大学

ⓒ2019 Information Processing Society of Japan